

カントリー・ロカビリー

カントリー & ロカビリーの特徴

カントリーは、1950年代にアメリカの開拓地で生まれた白人発祥の音楽です。2ビートを基調とした軽快なビートと明るい曲調で、今もなお多くのミュージシャンに影響を与え続けています。

また、その派生ジャンルであるロカビリーは、「ヒルビリー」と、「ロックンロール」を掛け合わせたジャンル。そのリズムも、カントリーと共通するものが多いですね。

そんなカントリー & ロカビリーの特徴は以下の通りです。

- 2ビートを基調とした軽快なビート
- ジャズとロックの要素が混じったリズム感
- 50年代らしいルーズな音色 + ブラシの軽快さ

2ビートを基調とした軽快なビート

カントリー・ロカビリーのリズムは、2ビートを基調としたものが基本。

また、それをダブル・タイムで演奏したビートも数多く存在します。

1拍目 & 3拍目に演奏されるキックが醸し出すビートは、
4拍子でありながらも「1・2・1・2」と軽快なリズム感を生み出します。

ジャズとロックの要素が混じったリズム感

カントリー&ロカビリーのビートは、

- ハイハットが奏でるシンバル・レガートの音型
- キックによる強拍のアクセント
- 2&4拍打ちのスネア

など、ジャズとロック双方の特徴を併せ持っています。

これも、カントリー&ロカビリーのビートにおける大きな特徴です。

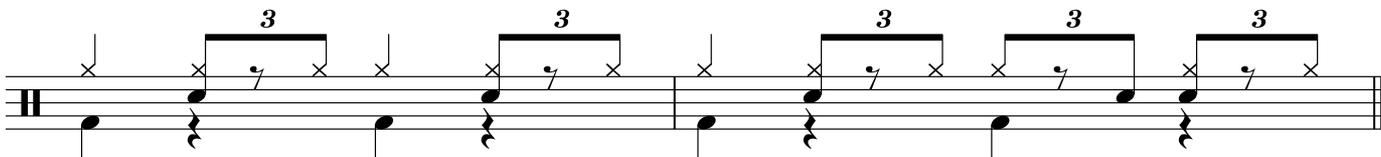
50年代らしいルーズな音色＋ブラシの軽快さ

ブルース同様に、
カントリー&ロカビリーも50年代のサウンドが良く似合います。

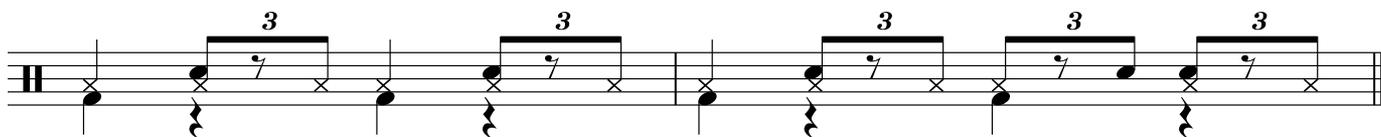
加えて、ブラシによる軽快なスネアの演奏も、
カントリー&ロカビリーの特色の一つともいえるでしょう。

カントリー・ロカビリー

パターン①



パターン②

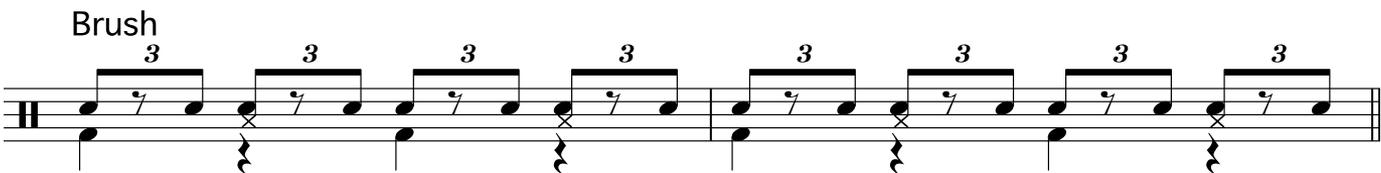


パターン③



パターン④

Brush



カントリー・ロカビリー

パターン⑤



パターン⑥

Brush



The image displays two musical patterns, labeled 'パターン⑤' and 'パターン⑥', on a grand staff. Each pattern consists of two staves. The upper staff contains a sequence of eighth notes with accents (>) above them, grouped in pairs. The lower staff contains a sequence of eighth notes with 'x' marks below them, also grouped in pairs. Pattern 6 includes the word 'Brush' written above the first few notes of the upper staff.

カントリー & ロカビリーの音色選び

カントリー & ロカビリーの音色の特徴は、
「50年代らしいルーズな音色 + ブラシの軽快さ」です。
ブルース同様カントリー & ロカビリーでは、
50年代のドラムサウンドが良く似合います。

ですから、ブルース・サウンドの特徴である

- 少し低めのピッチ（音程）
- ルーズなアタック（打音）
- 強めのルーム感（余韻）

これらに加えて、ブラシのサウンドをプラスしていくと良いでしょう。

カントリー & ロカビリーの打込みのコツ

■ カントリー & ロカビリーのベロシティ

ベロシティは、2拍目 & 4拍目にアクセントがおかれます。
スネアはもちろん、同時に鳴らすハイハットにもアクセントを付けてあげましょう。
また、軽快なサウンドを実現すべく、
メリハリのあるベロシティ設定を心がけましょう。

■ カントリー & ロカビリーのクオンタイズ

ブルース同様3連ウラのハイハットをルーズ目(ジャストよりプッシュ気味)に配置することで陽気なビートが表現でき、3拍目のキックを若干プッシュ気味に演奏することで、軽快なグルーヴもプラスしましょう。
加えて、16分音符を刻む場合にはスウィングを用いてハネ感をプラスすることで、より軽快なサウンドを目指しましょう。